

仙台市本庁舎建替基本設計公募型プロポーザル 第3回審査委員会 議事録

日 時： 令和 2 年11月 29 日(日) 15:30~17:50

場 所： 国際センター展示棟 会議室1

出 席： 伊東豊雄委員長、佐藤滋副委員長、乾久美子委員、小林光委員、佐々木睦朗委員、岩城利宏委員

内 容： 1 開会・進行説明

2 議事

(1)審査委員会の進め方について

(2)プレゼンテーション及びヒアリングを踏まえての技術提案審査

(3)技術提案書の評価実施

(4)2次審査結果報告

1 開会・進行説明

- ・ 全委員、事務局について、参加者や関係者と思われる者等と接触が無かったことを確認。

2 議事

(1) 審査委員会の進め方について

委員長) 本日の会議は設計者選定に関わる内容であり、審議内容の中立性を担保する観点から非公開とすることでよろしいか。

一 同)異議なし

委員長) 議事録について、発言者が特定されない形で作成し、私と名簿順に佐々木委員による署名をもって正式な議事録とすることでよろしいか。

一 同)異議なし

委員長) 本委員会の流れについて、事務局より説明をお願いします。

※ 事務局より委員会の流れについて説明

(2) プレゼンテーション及びヒアリングを踏まえての技術提案審査

① 参加者2について

- ・ 良くできている提案だが、気になる点がいくつかある。半屋外のイベント空間の日常利用はあまりうまくいかないのではないか。ヒアリングで回答があった、富山のグランドプラザの例は、両側に店舗が配置されているから成立しているもので、今回の市役所の周辺状況とは異なると思う。
- ・ 木の部分の提案が今後の展開を考えるにあたり、上手くいくかは疑問がある。また、外観について、日射の影響を考えると、ほぼミラーガラスとなると思われ、キラッと光る、冷たい印象の建物になると考える。
- ・ 連結免制震とする構造について、今日の説明を聞いてもその実現可能性について確信が持てなかった。質量比など、上手くいくのかどうか、構造上の条件がはまるとは考えにくい点がある。低層部の構造が華奢で、実際にはもっと柱や梁等が太くなると思われる。

- ・ 環境的には、ZEB Ready を目指す場合、壁面が透明のため、提案のイメージ通りにいかないのではないかと評価することは難しいと思われる。
- ・ 低層部を床暖房にするとのことだが、日常使いや小規模イベントではエネルギーロスが大きいと感じられ、コストもかかるものと思われる。
- ・ 低層部の使い勝手の面からは良いと思われる。低層部の使い方は、別途行う事業可能性調査を踏まえて決めるという記述があり、あえて書き込んでいなかったかもしれない。

② 参加者5について

- ・ 基本の構成はよくできているが、実際の空間にする際の寸法が適切ではないと考える。低層部の広場は、技術提案書に記載のイメージからは離れてしまっていると感じられ、建物高さを抑える限りは、この空間は変えようがないと思われる。
- ・ 構造については、それなりに考えられていると思われる。しかし4階から下の断面のファサードが窮屈に見える印象があるのと、また議場等のある上部にも一工夫欲しかった。
- ・ 建物高さが低い中で建物内にボイドを設けた場合でも、やり方によっては光が届く空間になると考えている。実現するには仕掛けが必要だが、不可能ではない。環境の面、エネルギー的には優れているものと考えている。
- ・ 東日本大震災を踏まえた視点や、周辺との連続性を意識している。どのように低層部で市民の方々と協働するか、中層部の行政機能で市民の方々とどのように施策を考えるかについて記載されており、実現性が高いと思われる。
- ・ 低層部の使い方を書きすぎてしまい、窮屈な印象を受ける。正直に書き込むとこのくらいにならざるを得ないのかもしれないが、一方で、狭いところを入り込んでいくという生活感が良いのかもと思う。周辺建物が高層化していく傾向の中、中低層に抑えるというポイントが重要で、そこは評価したい。
- ・ 低層に抑えるため、1フロアの面積をかなり大きくとらざるを得ず、大きな広場が北側にあり、南側の広場と連続性を持たせるには、大きな抜けの空間を作った方がよかったと思う。

③ 参加者6について

- ・ スキップフロアでオフィスをつなぐ提案は、今後の仕事の進め方の議論や連携が起こることが考えられる。自分事として公民連携を考えている印象があり、議論が広がりそうと感じた。上部構造が重いといった不安感については、建物高さを若干低くするなど改良の余地があるのではないかと。
- ・ ブレースの図を描いているあたり、実現に向けての意識が表れていると感じた。しかし、コストの面ではほかの参加者に比べてロスが大きいと思う。
- ・ ライフサイクルコストから見ると、相当大変と思われる。市庁舎として考えた時、ランニングコスト等、長く使うことを考えた時に心配が拭えない。灌水については相当量の水が必要になると思う。このままの形で維持し続けることができるかどうかは不安。
- ・ 市としての課題、市民がどのようなことに関心をもっているか、やはり防災面が根幹。財政負担や市民の求める市庁舎という点では市民協働も大事だが、第一に求められるのが防災であり、必須の機能である。技術的にクリアできるのかもしれないが、堅牢という点で疑問である。また、スキップフロ

アは、現実的には使い勝手が難しいと考える。

- ・ チームとしてエネルギーがあると感じた。技術的にも、それほど解決できなくもなさそうだと考える。積極的な姿勢は評価したい。
- ・ 今の日本にとってチャレンジも必要なのではないかと考える。スキップフロア自体は疑問だが、これから議論して検討するということもあると思う。

④ 参加者9について

- ・ 構造的に、5者の中で比べるとリアリティに疑問がある。検討すべき問題も多いと思う。
- ・ ボイドの提案やフロアごとにボイドがずれていく構成は興味深いと思うが、提案が抽象的で、わかりにくかった。もっと具体性のある提案ならばよかった。
- ・ 2つの大きな斜めのボイドが特徴であったが、このような大規模なボイドの事例は、国内にはないと説明だった。
- ・ 執務空間として使えるようにするには、いろいろなサブストラクチャーが必要となると思われる。その提案がなく、もっと踏み込んで欲しかった。また、質問に対してもあまり明確な回答がなかった印象であり、これ以上評価できなかった。
- ・ 低層部の使い方の提案が技術提案書から読み取りにくい。イメージとは書いてあるが、その辺も含めて提案してもらえると良かったと思うし、ヒアリングで質問をしたが、回答はこの後で考えるということであり、その点が残念であった。

⑤ 参加者10について

- ・ 建築計画的によくできている。低層部については、やや寂しい感があり、質疑でも明確な回答が得られなかった。「素朴な技術の活用」というコンセプトで、信頼性の高い技術を使いつつ、当たり前のことに価値を置くなど、古くからの技術が将来に生きていくような提案だと感じた。
- ・ ヒアリングで明快で合理的な構造計画のため質問はないと言ったように、構造面では、リアリティが高いと考える。施工面・コスト面ともに良いと思う。一方で、完成した時の驚きがあるかは微妙である。
- ・ 設備のリアリティがある。設備的にはあまり素朴ではなく、チャレンジ精神が感じられ、今後検討の余地はあるが、ヒアリングを聞いて、実現可能性が高いチームだという印象。
- ・ 東日本大震災を踏まえた「素朴な技術の活用」については、使い勝手や維持管理、ライフサイクルコストの面で評価できる。大空間の中でフレキシブルに対応できるフロアは、部署や職員の増減などにも柔軟に対応することができると思われる。
- ・ 低層部の提案が少ないという印象があるが、これからやりようがあるという意味で可能性があるとも考えられる。
- ・ 執務室を1フロアにするという案が多かった中で、小分けにすることも可能で無理のない堅実な案である。低層部を工夫し、もう少し賑やかな空間にしてほしかった。

⑥ 全体を通じた意見

- ・ どれもすばらしい提案であり、参加者の努力に感謝したい。
- ・ 参加者6はこれからの庁舎について意欲的な提案であり、参加者10は各フロアの利用パターンを

丁寧に考えた提案であった。参加者5は低層部分に市民を惹きつけられるよう、もう少し踏み込みがあればよかったと思う。

- ・ 技術的な検討は詰める必要があるが、全体ボリュームを抑え構成が合理的である参加者5と参加者10が技術的に練られている。参加者6のスキップフロアは、空気の処理が困難でランニングコストに跳ね返ってくるのが考えられる。
- ・ 実際にヒアリングし、参加者6と参加者10が建築として練られていると感じる。一方で、参加者6については、予算内での建築を考えると実現に向けて様々リスクが存在するので、現実性についても配慮して評価されるべきだろう。
- ・ 防災や環境の視点、財政制約の厳しさを踏まえたライフサイクルコストの観点や実現性を考えると、参加者5や参加者10の提案において高い合理性が読み取れるように思う。
- ・ 都市的な観点からすると、参加者5が良く考えられているのではないだろうか。参加者6は、意欲的ではあるが、建築として解かなければならない部分が多い。参加者10は低層部の整理が途中のような印象を受け、参加者5は北側の広場との連携に課題があるように思われる。
- ・ 参加者6と参加者10が良く考えられているように思うが、実現に向けてそれぞれ課題があり、そういう部分も含め、丁寧に評価する必要があることを改めて認識した。

(3) 技術提案書の評価実施

委員長) 意見交換を通じ、各事業者の技術提案について、評価されると考えられる点や、もう一工夫欲しい点や課題などが明らかになったものとする。それでは、採点をお願いする。

(4) 2次審査結果報告

事務局) 集計結果について説明

委員長) 集計の結果、参加者2が4位、参加者5が2位、参加者6が3位、参加者9が5位、参加者10が1位となった。説明のとおり、本審査委員会として二次審査評価点より、参加者10を受注候補者、参加者5を次点者として、選定してよろしいか。

一 同) 異議なし